



### 新しい医師が赴任致しました。



整形外科  
**三宅 佑**  
(みやけ たすく)

はじめまして。整形外科の三宅 佑(みやけ たすく)と申します。平成 28 年滋賀医科大学を卒業後、関西労災病院で初期研修 2 年、後期研修 1 年を行い、平成 31 年 4 月より当院に赴任して参りました。初めての異動でわからないことだらけですが、少しでも病院に貢献できればと思っています。

趣味は海外旅行・サッカー観戦です。お勧めの国は、ギリシャ、クロアチア、ボリビアです。定番ですが、行く価値ありです。行きたい国は、モロッコ、アイスランドです。また異動を機に神戸に引っ越したので、ヴィッセル神戸のファンクラブに入ってみました。予定があればホームゲームはなるべく観戦しに行こうと思っています。院内に全然知り合いがおらず寂しい状況なので、興味があれば是非、一緒に観に行きましょう。今後ともよろしくお願ひします。



眼科  
**関谷友宏**  
(せきやともひろ)

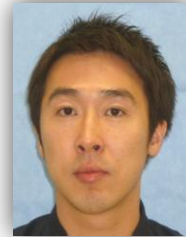
この度 4 月より神戸掖済会病院眼科に着任いたしました、医師の関谷友宏(せきや ともひろ)と申します。兵庫医科大学病院で初期研修後に同眼科へ入局し、この度ご縁がありこちらで働かせていただくことになりました。もともと神戸育ちの身ですので、今回のように地元で働くことが出来る環境は嬉しい限りです。まだまだ若輩の身で先輩先生方に多々ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



皮膚科  
**南 裕介**  
(みなみ ゆうすけ)

皮膚科専攻医 1 年目の南裕介と申します。神戸大学医学部を卒業し、西脇市立西脇病院、神戸大学医学部付属病院で初期研修を行った後、神戸大学皮膚科に入局しました。生まれも育ちも兵庫県で、大好きな地元で医師として働くことに日々喜びを感じています。まだ専門分野など将来的なことは決めることができていませんが、外来、入院、手術といったものの皮膚科診療も毎日とても楽しく感じています。休日は大学時代からしているテニスをしたり、バドミントンをしたりして汗を流したり、連休は友人と山に登ったりもしています。まだまだ未熟者ですが、患者さんの力になれるよう日々の診療を頑張っていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

### 研修医



研修医  
**荒井啓之**  
(あらいひろゆき)

この度、4 月から神戸掖済会病院で研修医として勤務することになりました新井啓之(あらいひろゆき)と申します。

初期研修の 2 年間でこれから始まるわけですが、いよいよ医師としての人生をスタートできるという期待感と、実際の臨床現場に出て責任が増すことに対する緊張感とが入り交ざっています。この 2 年間で、今まで学生時代に培ってきた医学の知識に加え、実際の臨床現場に即した実践的な手技や知識を新たに身に付けていかなければなりません。このように新しく学んでいくことを今までの知識

を基礎として結びつけ、更に応用させていければと考えております。

また、実際に患者さんを目の前にして医療を行っていくことになるので、患者さんからの信頼を得られるよう、自らの人間力を磨いていきたいとも思っております。まだ何科に進むかは決めておりませんが、この 2 年間で自分の進む方向を明確にできるよう、日々精進していこうと気持ちを引き締めているところですので、どうぞ宜しくお願い致します。



研修医  
**松浦一義**  
(まつうらかずよし)

この度、神戸掖済会病院の初期研修医になりました松浦一義(まつうらかずよし)と申します。兵庫県の小野市で生まれ、18 年間育ち、徳島大学で学びました。そのため、神戸に住むのは初めてです。中高の 6 年間は柔道に取り組み、大学ではロードバイクで徳島の山に登ったり、長距離の旅をしたりするのが趣味だったため、体力と耐久力には自信があります。神戸は山が多いので、登るのを楽しみにしています。研修医として働き学ぶ上で、患者さんの気持ちになって考え、患者さんに信頼される医師になるというのが

今の目標なので、その目標を初志貫徹していきます。信頼される医師になるのは簡単なことではないですが、上級医の先生方の心構えや技能、コミュニケーション技術を勉強させていただくなかで、少しでも多く自分のものにして、目標に近づけるように頑張ります。今のフレッシュな心で日々邁進していきますので、研修の間何卒よろしくお願ひ致します。



研修医  
**山本健太**  
(やまもとけんた)

はじめまして。今年度から神戸掖済会病院で研修医として働かせていただきます山本健太です。出身地は徳島県で出身大学は大阪医科大学です。部活動は剣道部に所属しており、国家試験の直前期まで稽古に参加していました。これからも、時間が許せば、剣道の稽古もしていきたいと思ひます。

神戸掖済会病院で働き始めて二週間目に入り、現在は脳神経外科を回らせていただいております。カルテを書いたり、オーダーを出したり、救急搬送されてきた患者さんと接触したり、カンファレンスでの発表など、初めてのことだらけ、まだ病院や臨床の現場に慣れることが出来ていません。また私の知識不足があるということで先生方やコメディカルスタッフの方々に迷惑をかけてばかりいます。しかし、先生方やコメディカルスタッフの方々に、多くの勉強の機会を与えて頂き、非常に丁寧にまた親切に指導して下さいっているので、意欲をしっかりと持って知識や技術を吸収していき、少しでも早く病院の力になれるように頑張っていきたいと思ひます。

# ポリファーマシー対策推進について



薬剤師 神足 杏子

ポリファーマシーとは、臨床的に必要とされるより多種類の薬剤を内服されている状態のことをさし、健康面だけでなく医療経済への影響など様々な分野で問題となっており、高齢者では6種類以上の投薬で有害事象の発生増加に関連したというデータもあります。(図 1,2 参照) すでに対策に取り組んでおられる医療機関の皆様もいらっしゃると思いますが、当院においても地域医療機関の皆様と連携し、この問題により積極的に取り組んでいくべきであると考えております。

つきましては、ポリファーマシーが懸念される患者さんにおいて処方薬を減薬・中止する場合がありますので、地域医療機関の皆様には何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。その際には処方元や転院先等の医療機関の皆様、並びに保険薬局の皆様に情報提供をさせていただきます。情報提供の方法は下記のような流れで実施させていただきます。

なお、薬剤調整には万全を期しておりますが中止・変更に伴う症状の悪化や望まない事象が起きる、または予測される場合にはお手数ですが再度薬剤を調整いただけますようお願いいたします。

図1 ポリファーマシーが形成される事例

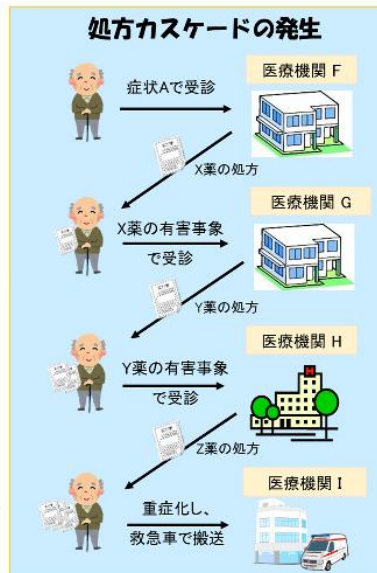
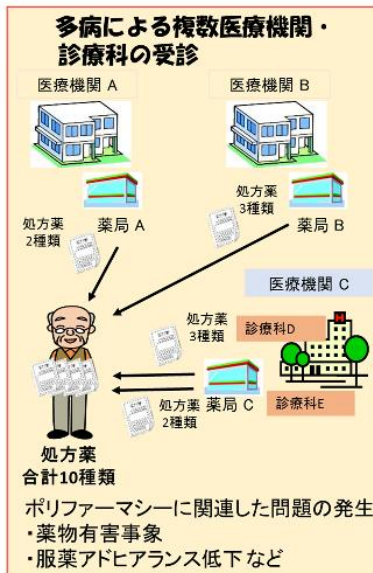
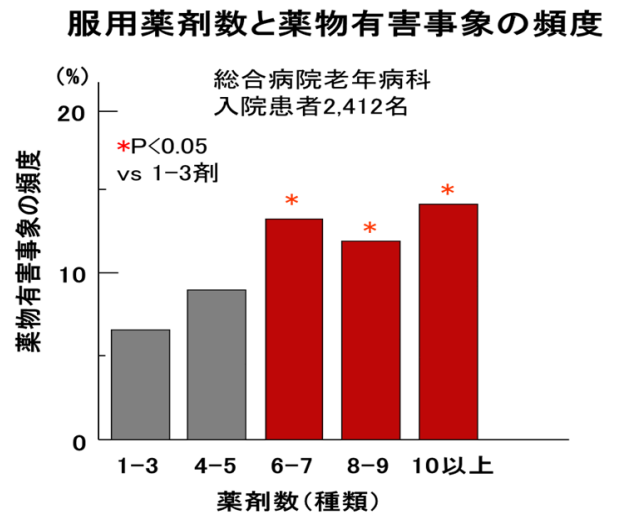
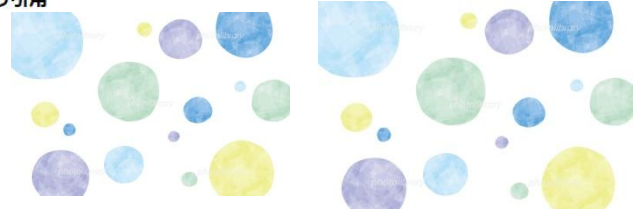


図2 服用薬剤数と薬物有害事象の頻度



厚生労働省, 中医協総会第417回, 最適使用ガイドラインについて, 資料(総-3), 2019.6.26より引用

厚生労働省, 中医協総会第417回, 最適使用ガイドラインについて, 資料(総-3), 2019.6.26より引用



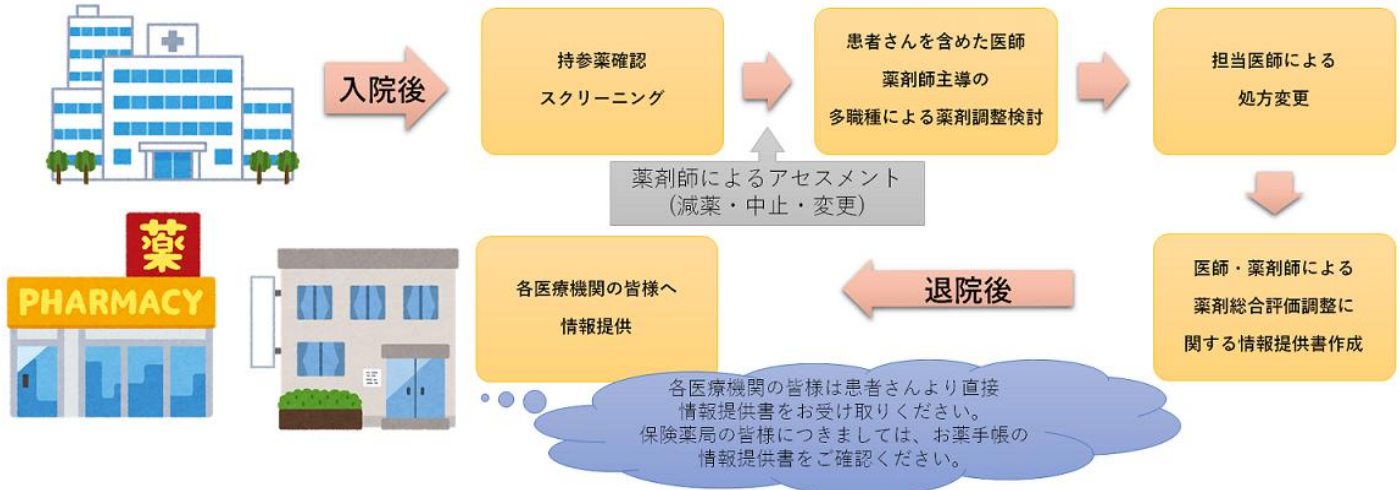
## ★NST勉強会

日時: 2019年8月22日(木) 17:45~18:45  
 場所: 神戸済済会病院 3階 講義室  
 対象: 医療職 介護職  
 参加費: 無料  
 定員: 10名  
 演題: 脳卒中の栄養管理  
 講師: 神戸済済会病院 脳神経外科部長 富永 貴志

(参加ご希望の方は地域医療連携室(781-1411)までご連絡下さい)

## ●処方元や転院先等医療機関の皆様への情報提供の方法

入院後、持参薬確認を行いポリファーマシーが懸念される患者さんにおきまして、患者さんを含めた医師・薬剤師主導の多職種による薬剤調整検討の結果、処方元の先生方の処方薬に減薬・中止・変更等が生じた場合は医師・薬剤師による薬剤総合評価調整に関する情報提供書を作成させていただく場合がございます。作成した情報提供書につきましては、退院後処方元の先生方へ受診される際に患者さんより直接お渡ししていただく形が基本となります。転院先の病院の皆様におきましても、診療情報提供書などと共に患者さんやご家族より直接お渡ししていただくこととなります。内容につきましては、処方変更理由や変更後の状態の推移等を記載させていただきますのでご確認の程宜しくお願いいたします。



## ●保険薬局の皆様への情報提供の方法

入院前の持参薬に関してポリファーマシーが懸念され薬剤調整が行われて退院となった患者さんにつきましては、お薬手帳に簡易ではございますが処方変更薬や変更理由等を記載した紙を貼付させていただきます。

将来的には、ICT などを用いた情報共有ができればよいと考えておりますが普及率や活用のしやすさを加味すると、現状ではお薬手帳が最も情報共有ツールとして適切であると考えられました。この情報は日々の薬剤管理・服薬指導業務等にご活用いただけるものと思いますのでご確認の程宜しくお願いいたします。

今後は、地域医療機関の皆様との相互の情報交換を通じてポリファーマシー対策に取り組んでいく所存でございますので、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

薬剤師 神足 杏子



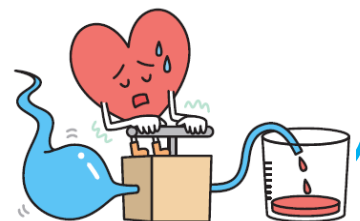
## 心不全チームの活動

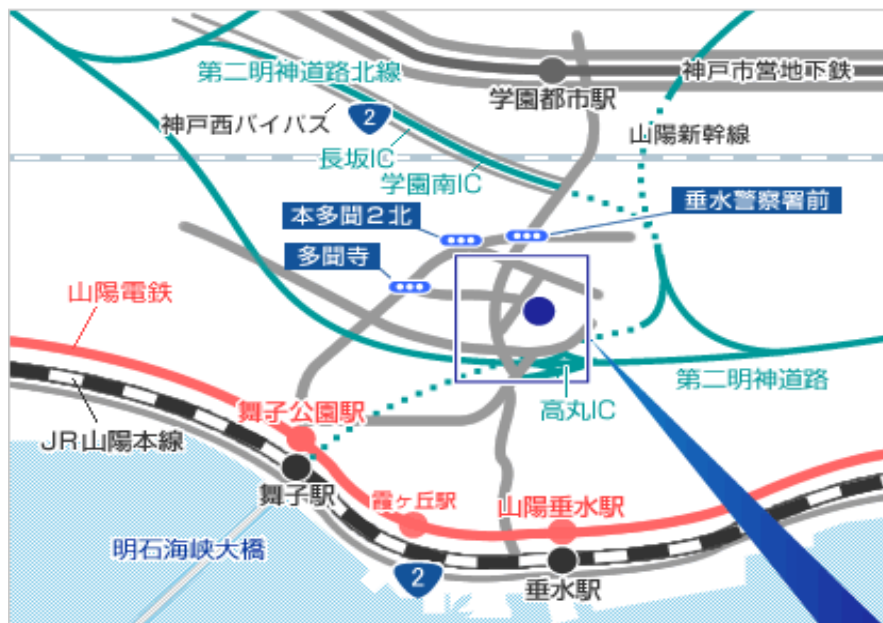
当院では2017年度より心不全チームを発足し、多職種が連携しながら心不全患者のサポートを行っています。昨今の超高齢社会は、心不全患者の増加をきたしています。世間では心不全パンデミックとも呼ばれ、55歳以上で健康である人の3人に1人が、その余生で心不全に罹患すると報告されています。

そのような社会背景の中、現在までチームの成果としては、心不全パスを作成し、心不全患者に対して療養指導、リハビリ、服薬指導、栄養指導など各々がパスに沿いながら、多職種が役割を果たしていました。また、心不全終末期医療に関してもチームで患者にとって納得のいく最期を迎えられるようにと考えてきました。

現在の取り組みとしては、心不全地域連携パスを作成し、院内だけでなく地域の医療機関と連携し、心不全患者のサポートができるシステム作りをしています。

看護師長 前田 有利





周辺図 ▶



【地下鉄学園都市駅から】山陽バス・神戸市バス 約12分

【地下鉄名谷から】山陽バス 約20分

【JR垂水駅から】山陽バス・神戸市バス 約20分



〒655-0004  
 神戸市垂水区学が丘1丁目21番1号  
 TEL：078-781-7811（代表）  
 FAX：078-781-1511  
<http://www.kobe-ekisaikai.or.jp>